

I 研究の経緯

1 研究の背景と目的

今日、児童生徒については、自分に自信がもてず、将来や集団生活に不安を感じている子どもが多くなっているという調査結果が出ているほか、当研究所への相談においても、いじめはもとより友人関係のトラブルに関する相談が相談回数全体の3分の1以上を占めるなど、大変深刻な状況にあり、児童生徒が好ましい人間関係を築き、生活に適応できるようにすることがますます重要となっていると言えます。

こうしたことから、子どもたちが望ましい集団を形成し、現在及び将来を豊かに責任をもって生きていく自己指導能力を育成するため、教育相談の機能を意図的・計画的に教育活動に生かすことが重要となっています。

本研究では、このような児童生徒の現状を踏まえ、教育相談の機能を生かした学校における教育活動の指導計画及び集団活動の充実に係る資料を作成し、児童生徒の自己指導能力の育成に関する研究を行うこととしました。

2 研究の概要

(1) 研究の内容

- ・ 各教科等における、教育相談の機能を生かした指導の在り方について
- ・ 教育相談の機能を生かした集団活動等の工夫及び家庭、地域との効果的な連携の在り方について

(2) 研究の方法

- ・ 各教科等における、教育相談の機能を生かした指導の在り方について調査研究を行い、分析・検証に基づき自己指導能力の育成を図る学校の教育活動の指導計画を作成する。
- ・ 集団活動（地域の教育資源を活用した体験活動を含む）等における教育相談の機能を生かした家庭、地域との連携の在り方に関する資料を作成するとともに、作成した資料を検証する。

- ・ 研究協力校における、教育相談の機能を生かした教科等の指導方法及び指導計画の調査研究を行うとともに、検証のための聞き取り調査を行う。

(3) 期待される研究効果

- ・ 各学校において、教育相談の機能を生かした指導計画を効果的に活用することにより、日常の教育活動における児童生徒の自己指導能力を育成する指導の充実が期待できる。
- ・ 各学校において、集団活動等における教育相談の機能を生かした家庭、地域との連携の在り方に関する資料を活用することにより、児童生徒の自己指導能力を効果的に育成することが期待できる。

(4) 年次計画

平成 25 年度（1 年次）

- ・ 各教科等における、教育相談の機能を生かした指導の在り方に関する調査研究
- ・ 集団活動における教育相談の機能を生かした指導と家庭、地域との連携の在り方に関する調査研究及び調査研究に基づく資料の作成

平成 26 年度（2 年次）

- ・ 研究協力校における、教育相談の機能を生かした教科等の指導方法及び指導計画の調査研究
- ・ 集団活動等における教育相談の機能を生かした指導の在り方に関する調査研究
- ・ 研究報告書、リーフレットの作成と研究成果の普及